

平成21年 3月21日設置

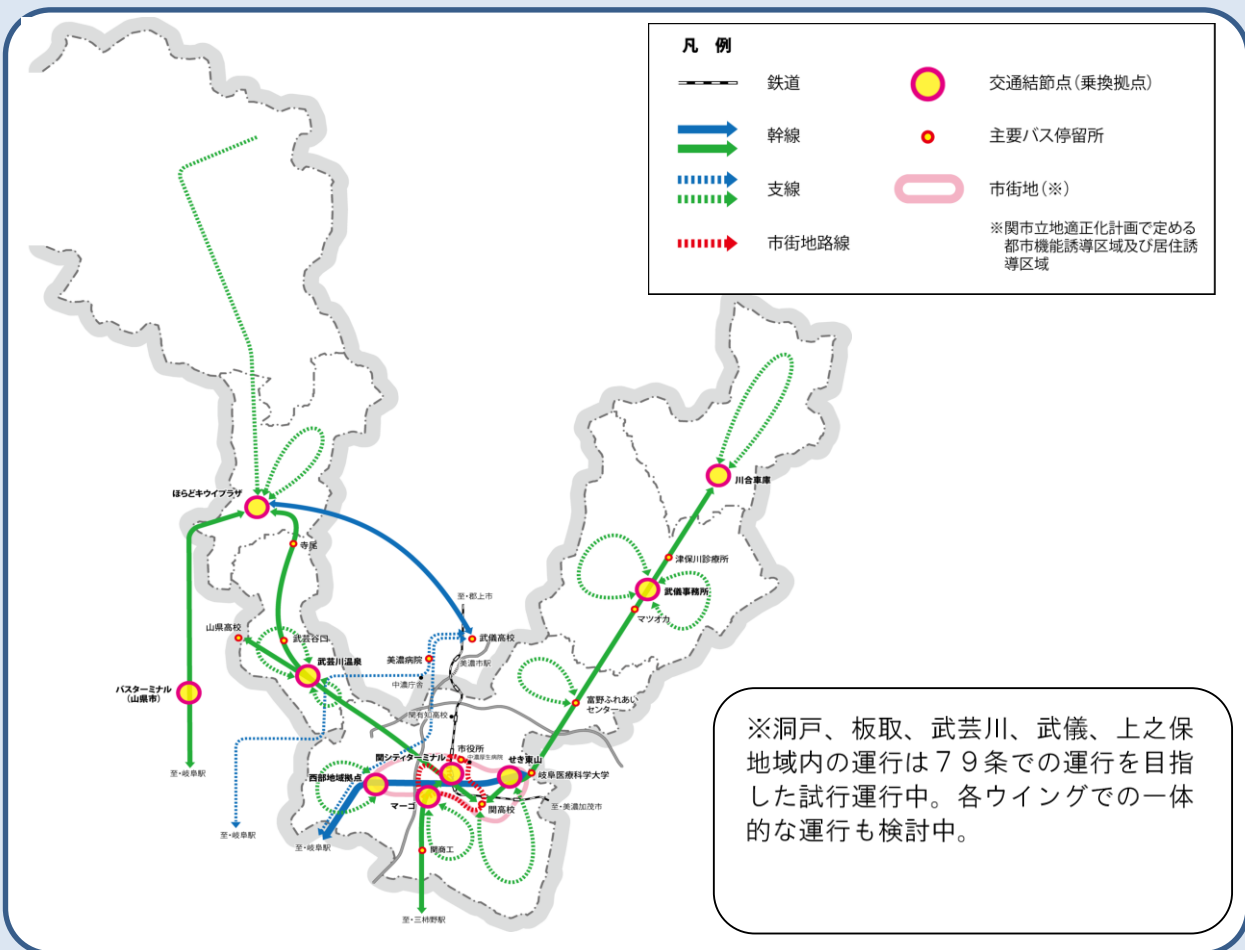
関市公共交通活性化協議会

フィーダー系統

平成28年 6月22日確保維持計画策定

## 1. 協議会が目指す地域公共交通の姿

- 関市第4次総合計画（平成20年3月策定）や関市都市計画マスタープラン（平成23年3月策定）において、鉄道や幹線路線バス、市内コミュニティバスなど多様な交通手段を組み合わせた公共交通ネットワークの構築、公共交通の利用促進のための乗継機能の充実・強化を明記
- 地域公共交通総合連携計画（平成21年3月策定）に基づき、平成23年度まで3年間、活性化・再生総合事業を実施、市内バス路線網再編及び実証運行を実施
- 上記で再編した路線を継承しながら、定量的評価や利用促進活動を実施し、さらに利用しやすく身近な公共交通サービスの維持と確保に努める
- 今年度、関中心部の路線見直しや、運賃改定、各ウイング（洞戸・板取・武芸川地域の西ウイング、武儀・上之保地域の東ウイング）の運行団体の統合及び有償化を目指すべく、公共交通網形成計画を策定予定（計画期間：平成29年～34年（予定））



## 2. 計画の達成状況の評価に関する事項

○地域公共交通活性化・再生総合事業で行った評価方法及び基準値を一部見直し、平成28年度のバス路線について、事業評価を実施

### 【評価方法】

**チェック1** 路線サービスと利用の乖離（採算性）と公的資金の投入の効率性・妥当性による評価（①～③）

**チェック2** 採算性だけでは判断しきれない地域の置かれた状況を踏まえた評価（④）

以上を総合し、**A：サービスを維持、B：路線は維持、C：運行形態の見直し**の3段階で全体評価

### 【H28路線別評価結果一覧】

	路線名	①利用者数(人/日)			②1便あたり利用者数(人/便)			③利用者一人あたりの補助額(円/人)			④沿線人口に対する利用者数(人/日)			⑤収支率(参考)		全体評価
		基準値	H28	評価	基準値	H28	評価	基準値	H28	評価	基準値	H28	評価	基準値	H28	
市幹線	関板取線	138	159	達成↑	10	13.3	達成↑	1,000円/人以下	703円/人	達成↑	0.48人/日	1.07	達成	15%	13.8%	A
	関上之保線	122	115	未達成↓	9	6.9	未達成↓		1,351円/人	未達成↓	0.38人/日	1.14	達成		8.3%	B
関地域幹線系	買い物循環線	62	112	達成↑	5	7.5	達成↑		412円/人	達成↑	0.71人/日	3.22	達成		15.6%	A
	市街地病院循環線	50	32	未達成↓	4	2.6	未達成↓		1,199円/人	未達成↓	0.40人/日	1.08	達成		6.8%	B
関地域支線系	わかくさ・小金田線	50	35	未達成→	8	8.7	達成→		682円/人	達成↓	0.65人/日	1.52	達成		9.8%	B
	わかくさ・千疋線	43	21	未達成→	7	4.1	未達成↓		1,019円/人	未達成↓	0.46人/日	1.17	達成		7.2%	B
関地域デマンド系	わかくさ・富野線	-	3	→	2	1.3	未達成↓	-	4,742円/人	↓	0.56人/日	0.86	達成	-	3.0%	B
	わかくさ・田原線	-	4	↓	3	1.7	未達成↓	-	3,017円/人	↓	0.69人/日	0.36	未達成	-	3.0%	C
	わかくさ・追間線	-	10	↓	2	2.2	達成→	-	2,388円/人	↓	0.27人/日	0.87	達成	-	3.0%	A
	わかくさ・向山線	-	14	↓	3	3.0	達成↓	-	2,309円/人	↓	0.53人/日	1.20	達成	-	3.0%	A
関市デマンド乗合タクシー	下有知地区	-	10	↑	1.5	1.5	→	-	1,332円/人	-	-	0.66	↑	15%	16.9%	-
	瀬尻・広見地区	-	3	↓	1.5	1.1	↓	-	1,828円/人	-	-	0.23	↓	11.5%	-	

A評価は4路線、B評価は5路線、C評価は1路線

- A評価となった4路線のうち、関板取線は東ウイングから関市中心部への通学・通院に利用、他の3路線については買い物利用や通院利用が定着
- B評価となった5路線のうち、関上之保線は西ウイングから関市中心部への通学・通院に利用。他の3路線については買い物や通院に利用
- C評価となったわかくさ・田原線は、買い物や通院に利用されているが、運行時間の長さ、乗降箇所の少なさのため利用が伸び悩んでいると考えられる。現在、地域住民が主体となり地域のバスマップ作成、敬老会等での利用説明会を開催し利用促進を行っている。  
また、地域住民の意見を踏まえ、地域住民が多く利用する個人病院への乗り入れを開始した
- 関市デマンド乗合タクシーは、H28.4より本格運行を開始したため、H29より評価を行う
- 関市地域公共交通網形成計画に基づき、評価結果を踏まえた路線改編を予定

### 3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

#### 《平成27年度までの取組み》

事業評価に基づき運行形態の見直しとなったエリアにデマンド乗合タクシーを試行導入

※導入後の実績：市の負担額 31.0%減、利用者 10.7%減

→利用者の減少理由について検証した結果、周知不足、乗降所不足であると考えられたため、各地域で利用者説明会を開催し利用方法の周知と乗降ポイント追加の要望をとりまとめ、乗降ポイントを追加し改善を図った。

#### 《平成28年の取組み》

事業	内容
①利用促進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関シティバス時刻表、バスマップの市内全戸配布</li> <li>● 小・中学生関シティバス乗車体験(平成28年度実績:2,520人)</li> <li>● まちづくり市民会議(チームKJB)による「路線バスで板取の旅」の支援(6/20(月)～30(木)の平日に開催。利用実績100人)</li> </ul>
②路線再編にかかる事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 路線評価、意見交換会を踏まえた路線便数の見直し</li> <li>● 岐阜バスとの協定による高速特急名古屋線の運行開始</li> </ul>
③乗継拠点整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 西ウイングの乗継拠点「ほらどキウイプラザ」の整備</li> </ul>
④関市地域公共交通網形成計画策定事業 (地域公共交通調査等事業)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現況調査</li> <li>2. ○関シティバス乗降調査：平日、休日各1日実施 ○関シティバス利用者アンケート調査：平成28年9月 回収294件 ○岐阜バス営業路線OD調査：ICカードを用いて市内6路線のODを整理 ○市民意見交換会：中山間地域(5地域)、旧関市(5地域) 延べ参加人数162人 ※中山間地域は運行団体との意見交換も実施 ○運賃シミュレーション：地域内バスの有償化、岐阜バス営業路線および関シティバスの運賃体系統一による必要経費算出</li> </ol>



ほらどキウイプラザオープン



市民意見交換会の様子(武儀)

#### 4. 具体的取組みに対する評価

##### 【生活交通確保維持改善計画に掲げた目標と結果】

評価指標	目標	結果	
①公共交通利用者（自主運行路線）の増加	対前年比増	前年比 <b>103.9%</b> (H27：201,043人 H28：206,310人)	達成
②市民の満足度向上	市民アンケートの「満足」が「不満」を上回る	満足 11.2% 不満 50.8% (H27年度満足度調査)	未達成
③持続可能な公共交通サービスの確保	バス運行年間支援額を市民一人当たり 3,000 円で維持	バス運行に係る支援額 254,121 千円 市民一人あたりの支援額 <b>2,814 円/人</b>	達成

※バス運行には、自主運行路線の他、協定による補助路線、旧町村での地域内バスを含む。

- ① 関市全体では利用者は微増傾向。今後、さらなる新規利用者の掘り起こしのため、小中学生を対象にした無料乗車体験や、既存路線を活用した日帰りバスの旅などの企画によって利用者増の継続を目指す
- ② 市外への移動が不満につながる大きな要因の一つとなっているため、平成 28 年 4 月より岐阜バスとの協定により、高速名古屋線の名古屋駅直通便を通勤・通学の時間帯に朝、夕各 2 便増便
- ③ 利用者数は微増傾向であるが、事業者単価増等により、市費支出及び市民一人あたりの支援額は増加傾向。（平成 27 年度に比べ、総支援額：6,492 千円増、市民一人あたりの支援額：93 円/人増）

##### 【調査事業の計画への反映】

調査結果に基づき、関市の公共交通の課題を以下のように整理

課題 1：まちづくりと一体となった地域公共交通網の構築

課題 2：市内を気軽に外出できる公共交通の運賃体系の構築

課題 3：地域に住み続けられる移動サービスの提供

##### 【協議会での検討内容】

- 市内の二重運賃の解消を目指した統一的な運賃体系の方針検討
- 市内外の移動ニーズと現行路線の課題を把握し、新たな公共交通網の検討
- 地域内バスの統合および有償化に向けた組織体制の計画

#### 5. 自己評価から得られた課題と対応方針

##### 【課題①】

自己評価、路線別評価において 10 路線中 5 路線が B 評価、1 路線が C 評価であり見直しが必要



##### 【対応方針①】

H28.10 から市街地病院循環線の減便、わかかさ・小金田線の増便を行い利用者の便に努めた。地域間幹線、旧町村での地域内バスと一体化した路線の見直しを行う。

##### 【課題②】

お出かけ支援として、新たな利用者の拡大に向けた取り組みを行う必要



##### 【対応方針②】

バスマップの配布、小中学生を対象にした乗車体験、観光利用 P R 企画等を継続して行うこと。運転免許証自主返納者を対象にした施策を検討し、新たなバス利用者層の拡大に努める。

関市公共交通活性化協議会

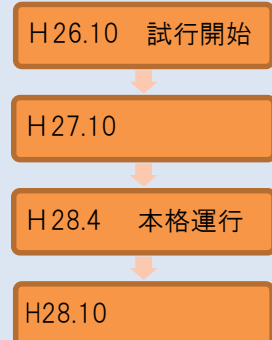
平成21年 3月21日設置

1. 直近の第三者評価の活用・対応状況

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
定時定路線からデマンドタクシーへの移行に伴い、利用者の観点からの再検証が必要。	関シティバス時刻表の全戸配布、意見交換会の開催による周知及び、ニーズの把握に努め、ミーティングポイントの新設を行った。	引き続き、周知や利用促進に努めるとともに、新たなエリアへの導入を検討する。
隣接する美濃市、山県市との連携。	両市と岐阜バスとの協定により運行している自主運行路線や、関シティバスの乗り入れについて協議を行った。	隣接市と地域間幹線に対する考え方を協議し統一するとともに、フィーダー系については市域を跨ぐ運行を検討し、利用者の生活に即したサービス提供を検討する。
旧町村部と関地域のバランスを考慮する。	各地域のバス運営協議会にて市の考え方の説明を行うとともに、関市地域公共交通網形成計画で関市全域での運行体系や運賃体系について検討している。	市内全域でのサービス水準の統一や統合的な運賃体系を構築し、モードを組み合わせた公共交通網を検討する。旧町村部については有償運行への移行を検討する。

2. アピールポイント

● デマンド乗合タクシー導入の実績とその後の取り組み



	利用者数 (人)	市負担額 (千円)
H26	4,535	8,562
H27	4,050	5,909
H28	4,562	6,590

利用者数 **0.6%増**  
市負担額 **23.0%減**

※H26 は定時定路線運行の実績

【利便性向上に向けての取り組み】

- ・ 試行1年間の実績から利便性検討のため、試行期間を延長
- ・ 公共交通マップ全戸配布、各地域の意見交換会で利用促進を実施
- ・ 利用者の要望を受け、乗降ポイントを11カ所追加

● 利用促進の取り組み

- ・ **小中学生を対象としたコミバス乗車体験**の実施した  
(乗車体験は本年で5年目：実施初年度 1,301人 → 2,520人に増加)
- ・ **市民団体の企画による路線バスの旅(関市街～板取地域日帰りプラン)**を後援した  
(前売り券 100枚完売)

【計画策定事業】

- 利用者アンケート調査では、現行路線の「満足している点」、「不満な点」を質問することで、**路線の見直しの方向性**検討に活用
- 中山間地域及び旧関市の10地区において、地域住民へのグループインタビューを実施。**市内外への移動ニーズ**、**現行路線への改善点**について意見交換
- 中山間地域(5地域)の地域内バス(無償運行)について、**地域の実情を踏まえた有償化(自家用有償運送事業)**に向けて運営団体ヒアリングを実施。**継続的なバス運営に対する課題と意向**を把握